

# ぱちんこ 言葉物語

④

## テトラ

今回の言葉物語は「テトラ」に焦点を当ててみたいと思います。テトラとはギリシヤ語での数字の数え方で「4」を示す言葉です。パチスロで演出用の第4リールを搭載した機種が登場した際に「テトラリール」と呼んだのが業界での始まりとなります。

この第4リール「テトラ」、1999年に登場した「シーマスターX」導入時に山佐が提唱したもので、他の第4リール搭載機では呼ばれない、山佐オリジナルの呼称となります。従って今回は山佐テトラリールとして掘り下げてみます。

テトラリールにおける当時の設計思想は小役示唆およびハズレ、チャンス示唆、ボーナス告知で、ユーザーはテトラリールに提示された演出の結果に対して様々な打ち方からボ

ーナスを確認するのが通例でした。

写真のシーマスターXではテトラリール演出発生時に右リールから押すのが楽しく、テトラリールとメインリールの演出の矛盾でボーナスを察知するのが至上の喜びでした。初登場ながらも、このシーマスターXのテトラリール演出の完成度は素晴らしく、以降登場する山佐テトラリール搭載機も基本思想が受け継がれていくこととなりました。

### 究極の「アラベスクR」

その後山佐からは続々とテトラシリーズがリリースされていきます。基本はチャンス演出告知と小役告知となりますが、その後テトラの究極とも呼ぶべき毎ゲーム稼働のテトラリール搭載機が登場します。それが前号でもお話しした「アラベスクR」です。

この機種は毎ゲームテトラリールが動き、シリーズの基本コンセプトである「第4のリール」という流れを実現させた機種とも言えます。メインリール



第4リール初搭載機種となった「シーマスターX」。演出用リールに3連7採用やフルカラーLEDバックライトなど初搭載機能も多い。  
©yamasa



毎ゲームテトラリールが動く「アラベスクR」。出目に加えテトラを加えた出目構成は他の追随を許さぬ完成度だった。  
©yamasa

での出目の完成度の高さに、絶妙に絡むテトラが更に良く出来ており、今なお語られる名機の一つです。この他にもテトラ搭載機は多く登場しています。一方で、毎ゲーム稼働するのはこの機種のみで、孤高の機種となりました。

その後もテトラリール搭載機は多く登場しますが、メインの出目に加えて音楽の出来がとにかく素晴らしいものばかりでした。ハイパーラッシュのテクノ系サウンドにファウスト・メフィストのゴシック系サウンドなど。テトラリール搭載機は目、そして耳で我々を楽しませてくれた名機ばかりでした。

### 液晶にない独自の世界

名機揃いのテトラ搭載機ですが、その後液晶の単価が下がったことや表現の幅が狭いことから、その後姿を消しています。ではなぜ今尚これらの機種が語られるのでしょうか。その答えに

なりそうな事案があります。それはドラム機CRFクイーンIIのヒットです。台粗利が低いこともありましたが、当時の姿を極力再現した完成度の高さは間違いなくユーザーの心を掴んでいます。過去にも同シリーズのリメイクは登場していますが、液晶機であったり独自の演出があつたりでイマイチの評価でしたが今回は本物でしょう。ドラムにはドラムの良さがあります。それは液晶機では絶対に超えることのできない表現の壁なのです。

テトラリールには独自の世界があります。液晶至上の方には「これぼっちでつまらない」と思うかも知れませんが、人間は想像する生き物です。ユーザーはテトラとメインで提示された出目と音で、奥に広がる世界を楽しんでいたのです。ですから噂にある「新アラベスク(仮)」の登場を心から楽しみに待ちたいと思います。(大和田敏男)

## 山佐の第4リールが登場